



競技用ヘルメットに関して

■MFJ 公認規格

MFJ公認ヘルメットには、以下に示すMFJ公認マークが貼付されており、貼付ラベルで使用できる期間を判別することが出来る。

MFJ公認規格	2022規格	2017規格	旧規格
貼付ラベル 見本			
使用期限	2036年12月31日まで	2031年12月31日まで	2026年12月31日まで

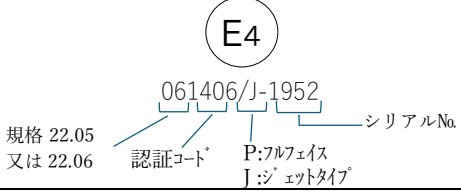
■FIM 公認規格

FIM 公認ヘルメットには、以下に示す FIM 公認ラベルがチンストラップに縫い付けられおり、貼付ラベルで使用できる期間を判別することが出来る。FIM 公認ヘルメットに関しては、www.frhph.org から入手することが出来る。

FIM規格	FRHPhe-01 (ロードレースのみ)	FRHPhe-02 (2026年より全種目適用 トライアル除く)
貼付ラベル 見本		
使用期限	2025年12月31日まで	

■MFJ 公認競技会（国際格式）に FIM ライセンスで参加する選手

MFJ 公認競技会（国際格式競技会）へ FIM ライセンスで参加する選手に限り、MFJ 公認規格、FIM 規格 (FRHPhe-01/02)に加え、ECE22.05/06、SNELL M2015/M2020/2025、DOT のいずれかの国際認証規格の一つに適合する安全基準を満たすヘルメットの使用が許可される。（ヘルメットリムーバーの着用は免除されるが、エマージェンシータブ機能を備えたヘルメットに限り認められる。）

他規格	DOT	SNELL	ECE
貼付ラベル 見本			
備考	ヘルメットの外側に貼付	ヘルメットの内側に貼付	○中の数字は承認国ごとの識別番号を示す

<ヘルメットの使用に関して>

ヘルメットは購入後の転倒による損傷や、使用手入れ状況による劣化の度合いなどは個々に異なる。車両検査において、以下に示す状態のものや劣化の激しいものは、ライダーの安全上使用することが認められない。

<使用が認められない例>

- 1) 帽体本体の樹脂部分に至る損傷（ひび割れ）がある場合。
- 2) 帽体本体の樹脂部分を削るようなスライド痕がある場合。
- 3) 帽体本体の発泡スチロールの緩衝材に損傷（ひび割れ・窪み）がある場合。
- 4) 顎紐取り付け部、D リング取り付け部、紐自体の劣化等ヘルメットの固定に支障がある場合。
- 5) シールド固定部の損傷、シールド自体にひび割れがある場合。

※ヘルメット及び装備品にはウェアブルカメラ等の装着が禁止される。

【推奨】ヘルメットは使用頻度や保存状態で経年劣化に差があるが、使用開始後10年を経過した製品は使用しないこと。

MFJ 公認マークが剥がれた場合はメーカーへご相談ください。

MFJ 公認マークは公認を取得したメーカーが貼付し、その際の手順・方法は全てメーカー側の意向で行われる。

一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会

※MFJ 公認ヘルメットの最新情報は MFJ ホームページにてご確認ください。 <https://www.mfj.or.jp/authorized/>